

~.....*~*

▼△ 災害ボランティア活動の始め方 △▼

~.....*~*



地震や台風、豪雨、火山の噴火など自然災害が発生した際に、被災地で様々な活動を担う「災害ボランティア」。

平成28年の熊本地震、平成30年の7月豪雨、令和元年東日本台風などでも、多くの災害ボランティアが被災地の復旧・復興のために大きな役割を果たしました。

「被災地の役に立ちたい」「復興を応援したい」と思ったとき、どのようにしてボランティア活動を始めればいいのかをご紹介します。

●災害ボランティアって、どんな活動をするの？

大規模な自然災害が発生した際、見返りを求めず、自発的に行う被災地への支援活動が、災害ボランティア活動です。

被災した地域や住民が、1日でも早く元の生活に戻ることができるようお手伝いをするを目的とし、力仕事から事務作業、心のケアまで様々な災害ボランティア活動があります。

未経験だったり、体力に自信がない方でもできる活動があります。

【被災地での活動例】

- がれきの撤去・分別
- 泥出し
- 室内清掃
- 引っ越しの手伝い
- 物資・衣類の仕分け
- 炊き出し
- 災害ボランティアセンター運営の手伝い
- イベントやサロン活動の支援

●被災地へ行く前に準備しなければならないことは？

◎まず始めるのは正確な情報の収集

災害が発生したら、すぐにでも被災地へ駆け付けたいという思いがあるかもしれませんが、行く前に被災地の状況を確認することが重要です。

「とりあえず現地へ行こう」と行ってみても、現地ではボランティアの受入れ体制が整っていない場合があります。力を発揮できないばかりか災害復旧作業の妨げになることもあります。

求められるニーズは、災害や被災地によって異なりますので、ボランティア活動を支援・推進している全国社会福祉協議会などのSNSやウェブサイトで最新の情報を必ず確認してください。

なお、被災地の自治体へ直接電話をすることは避けましょう。職員の方は様々な緊急対応を行っているため、電話での問い合わせへの対応に時間を割かなければならなくなり、手が回らなくなってしまう可能性があります。

●被災地で実際に活動するには？

(1) 災害ボランティアセンターで受付する

災害ボランティアセンターは、災害時に、被災地の社会福祉協議会が中心となり開設され、被災地でのボランティア活動を円滑に進めるための拠点です。個人ボランティアの登録を受け付け、被災者の要望（ニーズ）と個人ボランティアの調整（マッチング）を行い、両者をつなぐ役割を果たします。

(2) 出発前の説明（オリエンテーション）を受ける

活動内容や場所、注意事項などについて説明を受けます。その後、バス等で活動現場へ移動。道具や地図が用意されている場合もあります。

(3) 被災地の現場で活動する

元の生活を取り戻したい被災者をサポートするのがボランティアです。「被災者への心配り」を忘れず、自分の経験による判断を押し付けず、被災者の気持ちや立場に配慮し、被災者中心の支援を心がけましょう。また、活動中の健康状態に気をつけましょう。ボランティアが病気やケガをしてしまうと、被災地に負担をかけてしまいます。不調になったら早めに活動をやめる勇気を持つことも必要です。

(4) 報告・記録を忘れずに

活動終了後、活動内容の進捗状況や被災者の様子、気づいたことなどを災害ボランティアセンターのスタッフへ報告。それらの情報は、その後の活動に活かされますので大変大事です。

◇支援ニーズは時間が経つにつれ変化する

被災地では、災害の直後だけでなく、その後も復興に向けたボランティア活動が行われます。時間が経つにつれ、支援ニーズは変化していきます。

被災地の災害ボランティアセンターのウェブサイトやSNSでは、現在、どのような支援ニーズがあるかをリアルタイムで発信しています。

また、全国社会福祉協議会が運営する下記のウェブサイトでも、各被災地の災害ボランティアの情報を調べることができます。

◆全社協 被災者支援・災害ボランティア情報

<https://www.saigaivc.com/>

・関連リンク

内閣府「防災ボランティア関係情報」

<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/bousai-vol/index.html>

以上